

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査（以下、全国調査）を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

この結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

- 1 調査期日 平成30年4月17日（火）
- 2 調査の対象学年 中学校3年生（悉皆調査方式）
- 3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、数学A、理科]	主として「活用」に関する問題 [国語B、数学B、理科]
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。

※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う調査。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査(意識調査)	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査。	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。

4 調査結果及び考察について

全国調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。また、1、2年生は「佐賀県小・中学校学習状況調査」（以下、県調査）の国語と数学が実施されましたので、合わせて公表します。

(1) 全国調査の平均正答率

		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	本校	73	57	64	41	59
	県	75	59	64	44	64
	全国	76.1	62.1	66.1	46.9	66.1

※ 学校平均と県平均は整数値で提供されていますので、正確な比較はできません。

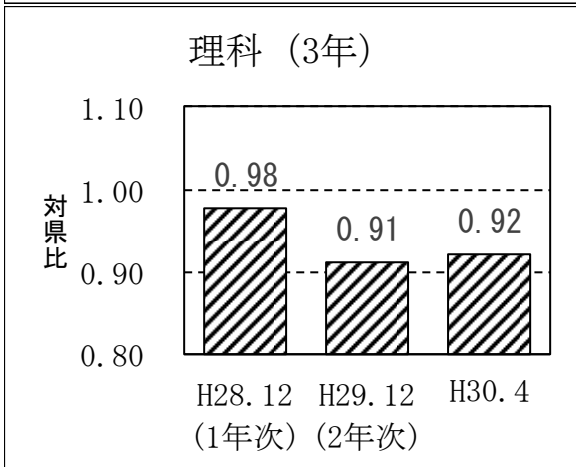
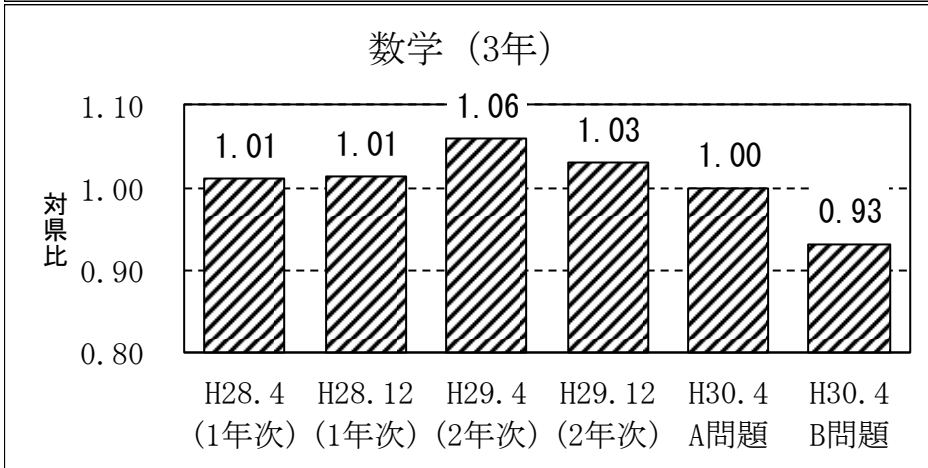
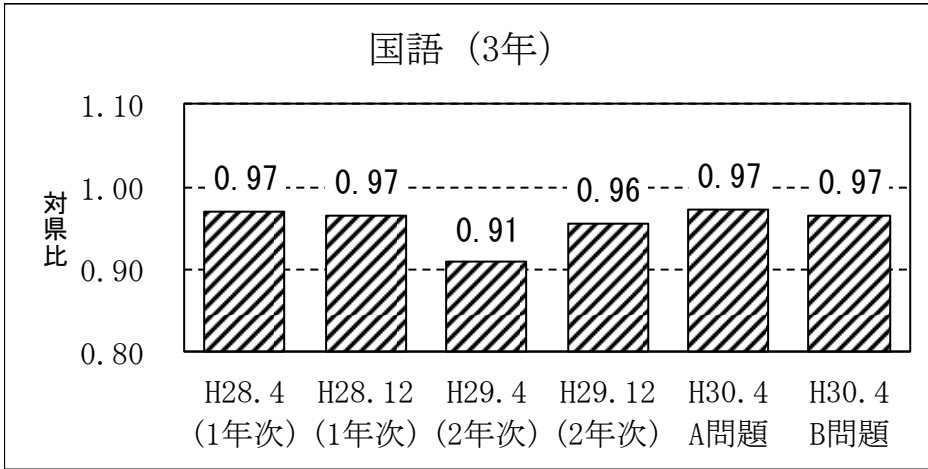
(2) 県調査の平均正答率

		国語	数学
2年	本校	59.4	54.8
	県	59.1	53.8
1年	本校	61.6	60.5
	県	69.5	67.1

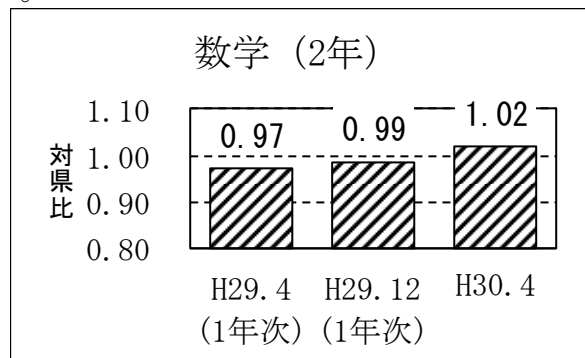
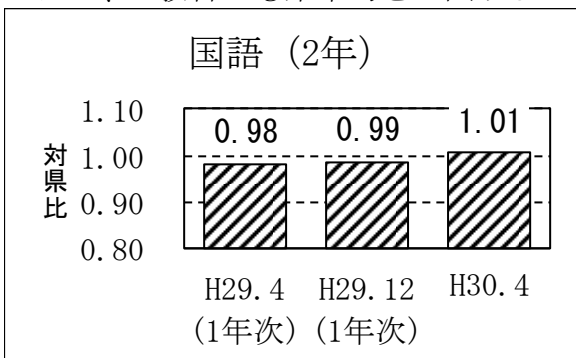
(3) 学習状況調査及び意識調査から読み取れる実態

ア 学習状況調査 ※県平均を1.00とした割合で表しています。

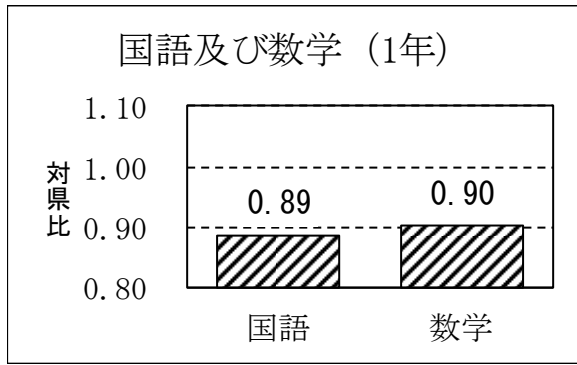
(7) 3年生は、国語A及び国語B、数学B、理科の4区分で県平均を下回りました。ただ、国語は2年次から県平均との差が縮まり、改善しています。数学Aは、県平均と同程度でした。理科は、1,2年次は県調査との比較になりますが、3年次の全国調査においても県平均を下回っています。



(イ) 2年生は、国語と数学はどちらも1年次は4月調査、12月調査で県平均を下回っていましたが、2教科とも県平均を上回りました。



(ウ) 1年生は、国語及び数学について、県平均を下回っています。



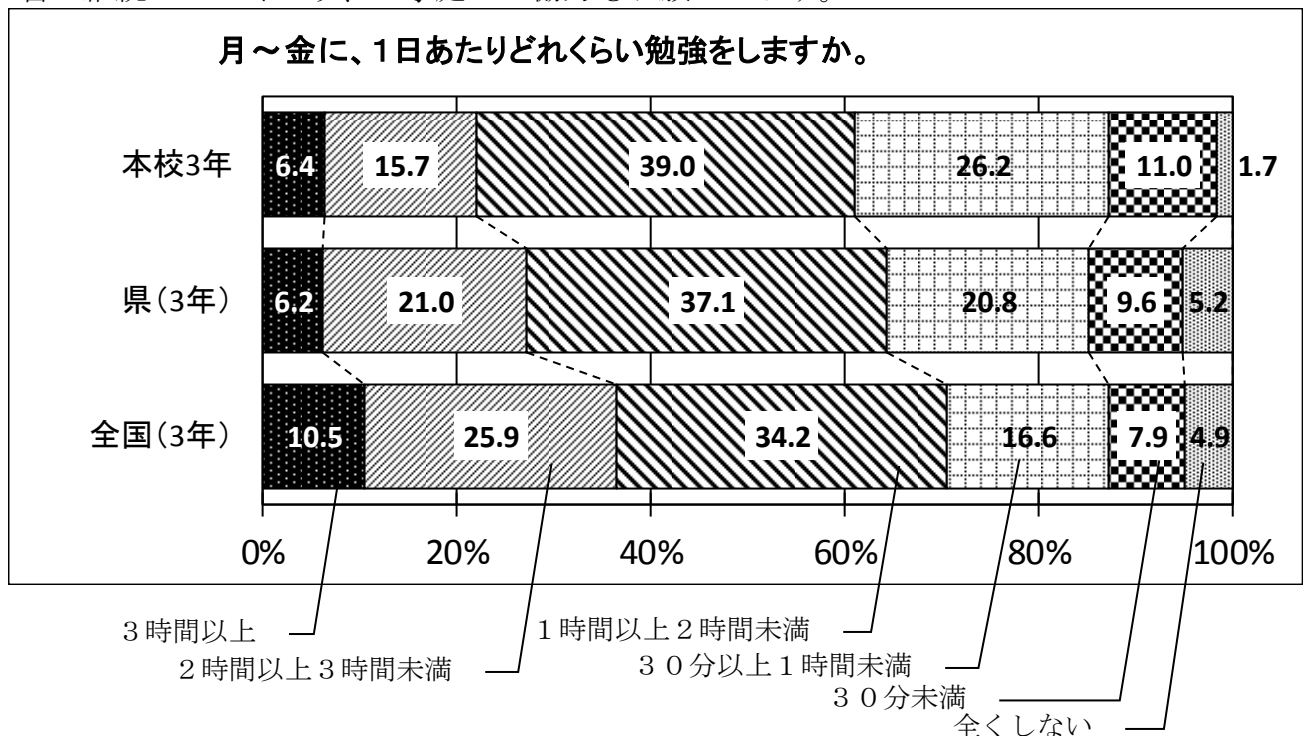
イ 意識調査

ここでは、「児童生徒に対する調査（意識調査）」を取り上げ、学力との相関がみられる傾向のある「家庭学習時間」、「自己肯定感等」、「家での家族との会話」の3つの質問項目について比較することにします。次のような結果でした。

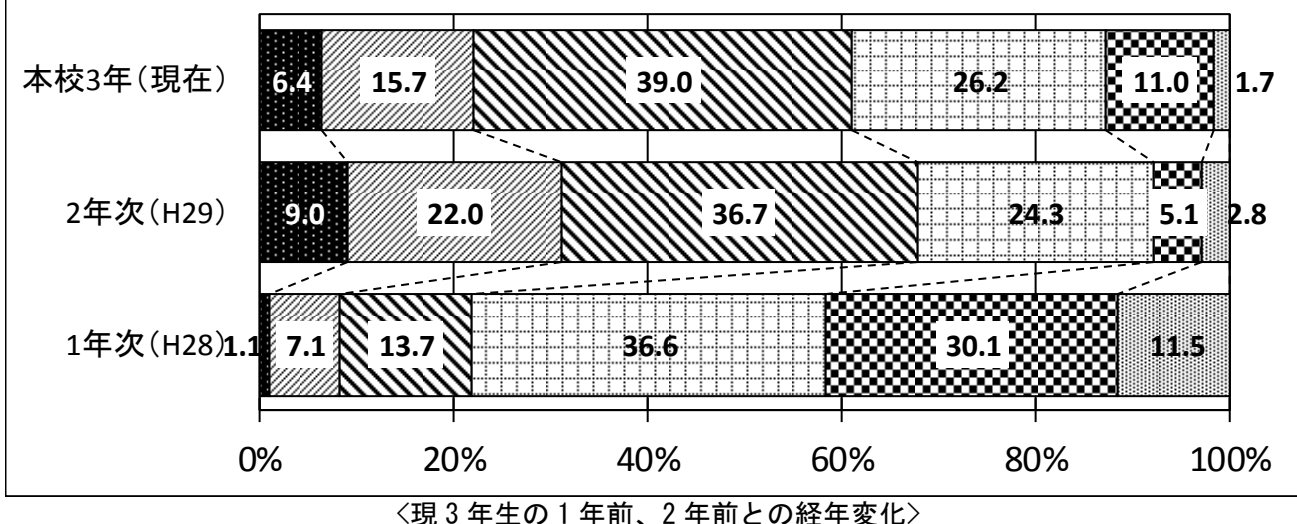
(ア) 「学校の授業時間以外の普段（月曜日から金曜日）の勉強時間」について

3年生は全国や県平均と比べ、勉強時間が明らかに少ないといえます。このことは、対象となる生徒の1年次、2年次の同調査でも同じ傾向で改善できていません。ただ、昨年度は、極端に少なかった1年次に比べ、根気強い指導の成果が見られる傾向にありました。引き続き、家庭学習の在り方について、量と質を踏まえ、成果につながるようにします。また、1年生も県平均と比べて勉強時間は少なく、課題であり、2年生も十分な勉強時間が確保できているとは言えません。

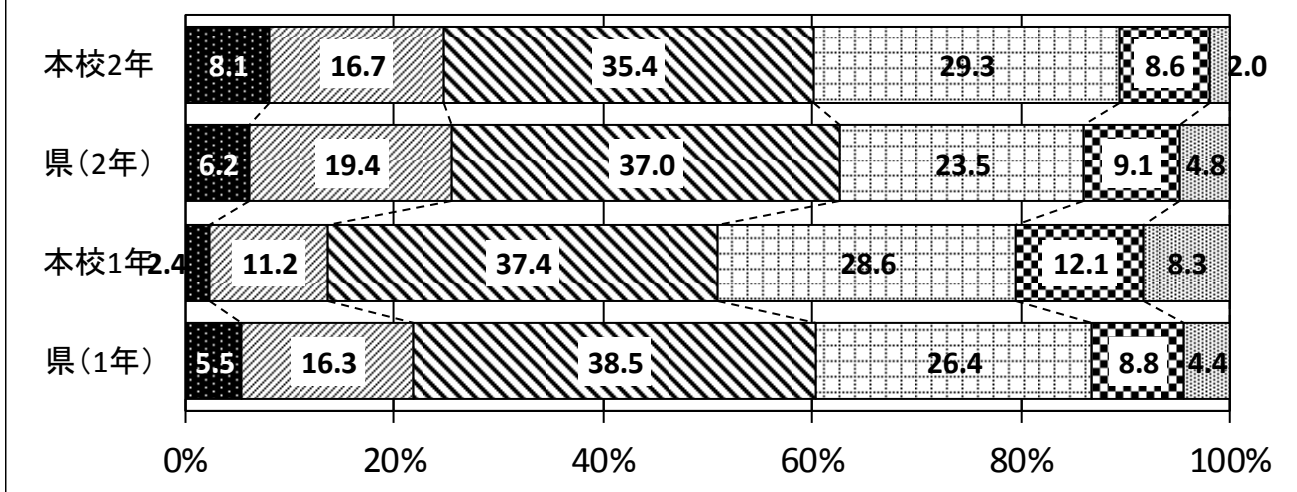
確かな学力を定着させるためには、家庭学習は不可欠です。3年生は高校入試が迫り、これからは受験勉強も含めて取り組んでいくと思われますが、1、2年生も計画的に家庭学習が継続していくよう、ご家庭での協力もお願いします。



月～金に、1日あたりどれくらい勉強をしますか。



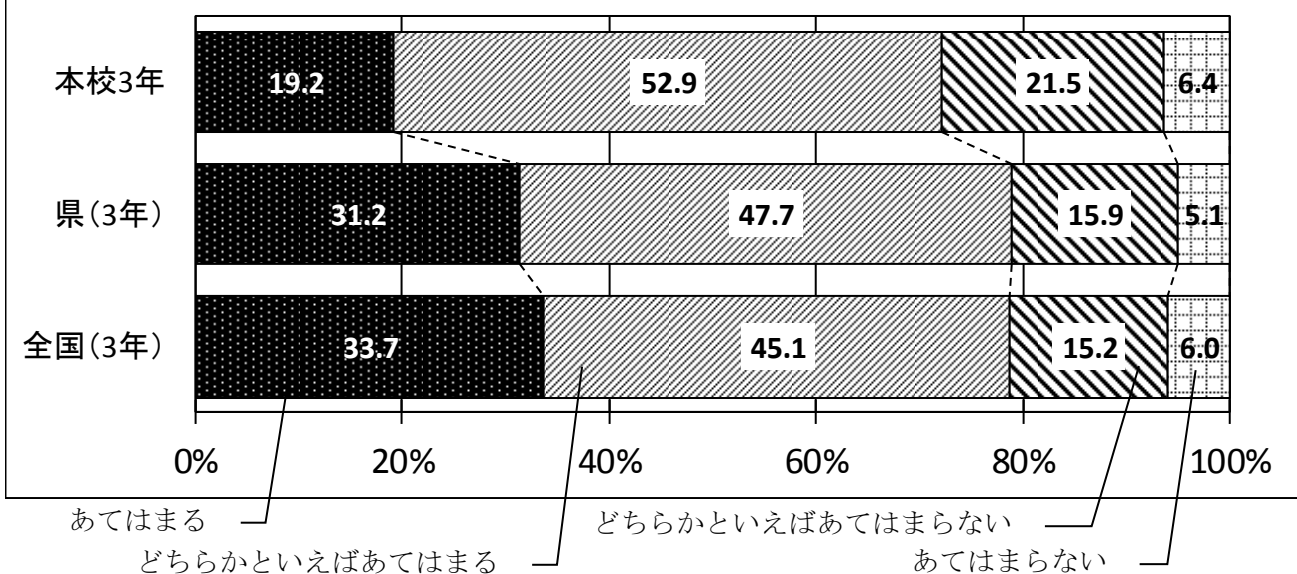
月～金に、1日あたりどれくらい勉強をしますか。



(イ) 「自己肯定感等」について

1、2年生の県調査ではなく3年生の全国調査での質問項目ですが、本校の回答状況は次のような結果でした。全国や県の回答に比べて、自己肯定感が低い傾向があります。

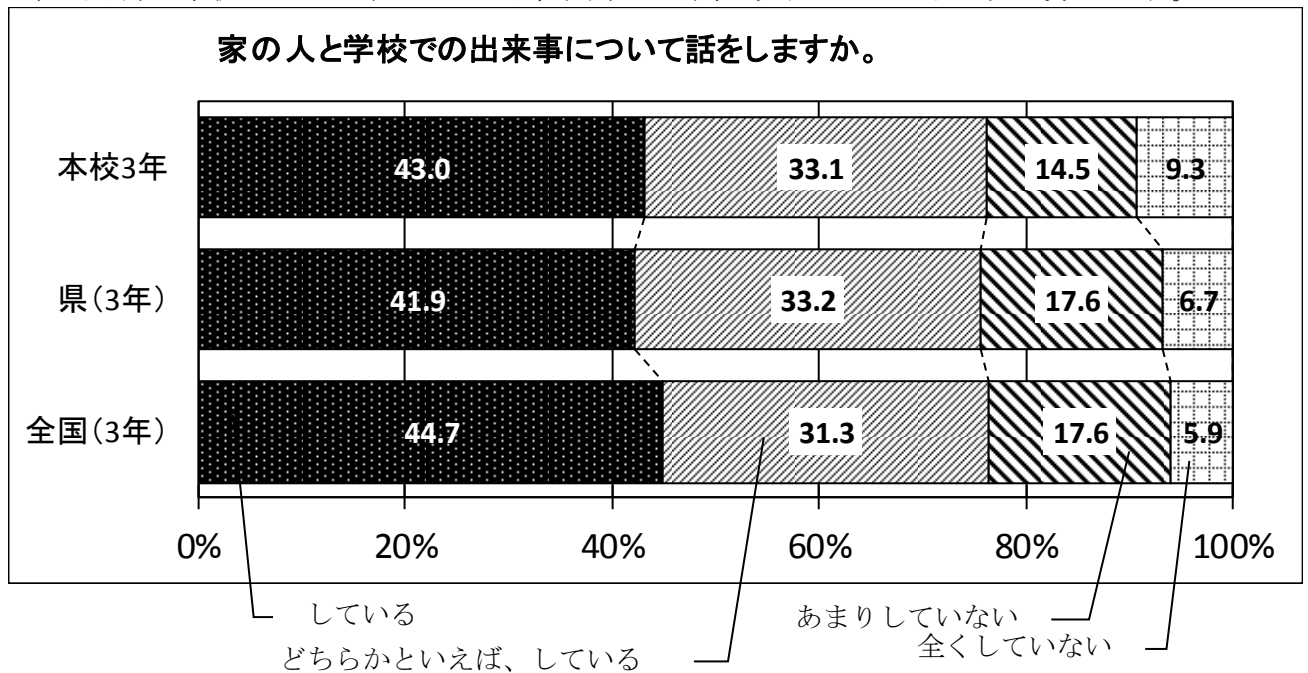
自分には、よいところがあると思いますか。



一般的には、確かに、国際的に見て日本の子どもの自己肯定感が低いことは、自分を謙虚に表現するという国民性が反映しているという見方もなされています。しかしながら、ボランティアへの意識も高まる中、学習や学校生活を通して、成功体験を積み重ねさせることで、自己有用感や自己肯定感を高めていかなければなりません。何か困難なことに出会っても、「きっと、自分なら何とか乗り越えられる」と考えられるように、自分で考え自分で決め、自分でできた体験を積み重ねていくように支援していきます。自己肯定感の基盤には良好な家族関係があることもポイントですので、保護者の協力も必要です。

(ウ) 「家の人と学校での出来事についての会話」について

3年生の結果ですが、全国や県平均に比べて傾向は変わりません。昨年度も同じ傾向がありました。7割以上の生徒が、「している」「どちらかといえば、している」と回答しており、良好な家庭の様子がみえます。ただ、「全くしない」と回答した生徒の割合は、全国平均を3.4ポイント上回り、昨年度の3年生より増加しました。十数名の生徒になりますが、課題です。今後も引き続き、学校での様子などの情報発信（毎月2回の学校だより発行、即日更新の学校Webなど）を心がけ、団欒の時間が充実していくように努めます。



(4) 教科別の分析

ア 国語 (3年)

A問題では、県平均を上回った設問数は、全32問のうち10問で、B問題では全9問のうち2問でした。国語A[2]二、国語A[5]一、国語A[7]一、国語B[3]二については、それぞれ次のような結果でした。

本校及び県、全国の平均正答率、()は無解答率

	国語A[2]二	国語A[5]一	国語A[7]一	国語B[3]二
本校	71.1 (5.8)	65.3 (0.6)	79.8 (1.2)	56.9 (0.0)
県	63.4 (3.1)	71.4 (0.5)	86.1 (0.6)	65.2 (0.4)
全国	64.0 (3.3)	86.1 (0.5)	87.3 (0.6)	68.2 (0.4)

A[2]二は、県平均を7.7ポイント上回っていました。電子書籍について特集した図書だよりを書くという場面が設定され、書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成したり、伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫して書いたりすることが求められました。学習指導要領の第2学年 B 書くことに示されている「事実や事柄、

意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと」に関連しています。授業では、係からの報告や記録の文章に不足している情報や、付け加えた方がよい情報について検討し、実際に説明や具体例を書き加えるなどの学習活動を位置付け、更に定着を図ります。

A $\boxed{5}$ 一は、新聞紙の製造工程などを紹介する説明的な文章において、本文の第六段落の説明として適切なものを選択する問題でした。県平均を 6.1 ポイント下回りました。解答類型からは、1 を選択したのが 11.0%、2 を選択したのが 13.3% という反応率でした。段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容理解に役立てることができず、情報を整理して内容を的確に捉えることに課題があることが分かりました。説明的な文章を読む際に、段落ごとの内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、文章全体におけるそれぞれの段落の役割を捉えるように指導していきます。

A $\boxed{7}$ 一は、テレビの【天気予報】の一場面で示された「ハナイカダ」という言葉について、辞書にある様々な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える選択式問題でした。県平均を 6.3 ポイント下回っており、文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くことができていません。一つの言葉でも複数の意味をもつものがあり、その意味については、国語辞典を用いて調べる学習活動などを通して、語句の辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて文脈において具体的かつ個別的に捉えられるように指導していきます。

B $\boxed{3}$ 二は、宇治拾遺物語にある説話を基に書かれた川端善明の文学的な文章「夢を買った話」からの出題でした。文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する問題で、登場人物の言動の意味などを考えて内容を理解しなければなりませんでしたが、十分ではなく、県平均を 8.3 ポイント下回りました。正答は「この話の語り手」でしたが、解答類型から、「ひきのまきひと」を選択したのが 21.3%、「夢うらないの女」を選択したのが 14.9% という反応率でした。文学的な文章を読む際には、登場人物の言動が話の展開や作品全体に表れたものの見方などに、どのように関わっているかを考えながら読むように指導を継続していきます。

イ 数学 (3 年)

A 問題では、県平均を上回った設問数は、全 36 問のうち 19 問で、B 問題では全 14 問のうち 4 問でした。数学 A $\boxed{2}$ (1)、数学 A $\boxed{5}$ (1)、数学 B $\boxed{3}$ (1)、数学 B $\boxed{4}$ (1) については、それぞれ次のような結果でした。

本校及び県、全国の平均正答率、() は無解答率

	数学 A $\boxed{2}$ (1)	数学 A $\boxed{5}$ (1)	数学 B $\boxed{3}$ (1)	数学 B $\boxed{4}$ (1)
本校	33.9 (11.5)	60.9 (1.1)	56.1 (0.6)	38.7 (0.6)
県	47.0 (7.6)	69.9 (1.5)	63.0 (0.5)	51.2 (0.7)
全国	41.5 (8.5)	74.3 (1.4)	67.6 (0.5)	55.4 (0.7)

A $\boxed{2}$ (1) は、「1 個 a kg の荷物 3 個と 1 個 b kg の荷物 4 個の全体の重さは 15kg 以上である」という数量の関係を表した不等式を書く基本問題でした。県平均を 13.1 ポイント下回りました。無解答率も高い傾向があります。本校の解答類型からは、正答「 $3a+4b \geq 15$ 」に対して、「 $3a+4b > 15$ 」が 13.8%、「 $3a+4b = 15$ 」が 14.9% の反応率でした。数量の大小関係を正しく捉え、不等号を用いて適切に表すことができていません。「15 以上」と「15 より大きい」を混同していたり、数量の関係を相等関係として捉えたりしていることが分かります。荷物の全体の重さを $3a+4b$ と表現し、その重さが 15kg 以上であることから、 $3a+4b$ は 15 または 15 より大きいと捉え、不等号で表すことができるように丁寧に指導していきます。

A $\boxed{5}$ (1) は、直方体において、与えられた面に平行な辺を書く問題でした。県平均を 9.0 ポイント下回りました。空間における直線や平面の位置関係が理解できておらず、与えられ

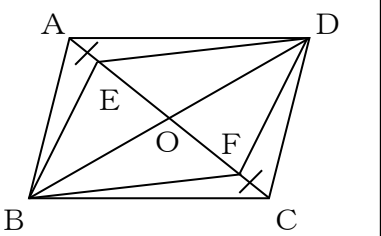
た面に対して平行な辺と、面に対して平行な面を混同している生徒がいると考えられます。第3学年の三平方の定理の学習につながる内容ですので、教具やモデルを使い、再度、基本事項として復習するようにします。また、デジタル教科書を使ったり、電子黒板に大きく映してマーキングしたり、一つ一つに時間をかけて確認するようにします。

B³(1)は、事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することを問う選択式問題で、県平均を6.9ポイント下回りました。列車の運行の様子が直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶのに、正答の「列車の速さ」に対し、「列車の走行距離」を選択している生徒が20.7%ありました。実際の列車の運行の様子から一定のものを選んだと考えられます。数学的に表現された結果を事象に即して解釈できるようにし、その際、ダイアグラムは、列車の運行の様子を列車の速さが一定であると理想化・単純化して直線で表したものであると捉えることができるようにしたり、実際に走っている列車は駅での発着や減速、加速を繰り返しているが、このダイアグラムで表されている列車は一定の速さで走っているとみなしていることを確認する場面を設定したりして、グラフから読みとる学習を位置付けていきます。

B⁴(1)は、証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる選択式問題でした。県平均を12.5ポイント下回り、B問題の中で、最も差が大きい結果でした。

右の図のように、平行四辺形 $ABCD$ の対角線の交点を O とし、線分 OA 、 OC 上に、 $AE = CF$ となる点 E 、 F をそれぞれとります。

このとき、四角形 $EBFD$ は平行四辺形になることを証明しなさい。



この問題に対する証明が示されたことを受けて、四角形 $EBFD$ が平行四辺形であることから新たにわかることを答える選択式問題でした。正答の「 $EB = FD$ 」に対して、解答類型から「 $OE = OF$ 」が37.0%、「 $AE = CF$ 」が16.2%の反応率がありました。証明の過程で根拠として用いられた性質を、新たにわかる性質であると捉えたり、この問題の仮定を新たにわかる性質であると捉えたりしたと考えられます。証明の過程で用いた事実や得られた結論に着目し、新たな性質を見いだす活動を取り入れるなど、証明を書くこととともに、証明を読む場面を設定し、証明の結果や過程を振り返り、新たな性質を見いだすことができるように指導していきます。

ウ 理科 (3年)

県平均を上回った設問数は、全27問のうち3問でした。²(2)3%の濃度、²(3)、⁶(2)電流、については、それぞれ次のような結果でした。

本校及び県、全国の平均正答率、()は無解答率

	² (2) 3%の濃度	² (3)	⁶ (2) 電流
本校	30.2 (0.6)	69.8 (0.0)	64.5 (20.3)
県	44.1 (1.3)	78.7 (0.2)	74.8 (11.6)
全国	46.9 (1.3)	79.7 (0.2)	77.2 (11.6)

²(2)は選択式問題で、濃度が異なる食塩水のうち濃度の低いものを指摘する設問と、濃度が3.0%のものを選ぶ設問でした。濃度の低いものを指摘する設問は正答率75.9%で県平均より6.1ポイント下回っていましたが、濃度が3.0%のものを選ぶ本設問は県平均を13.9ポイント下回りました。最も差が大きい結果となりました。溶液(食塩水)の質量に対する

溶質（食塩）の質量の割合（質量パーセント濃度）を表す技能を身に付けておらず、十分に理解できていません。水溶液の濃度を量的に扱うことは、水溶液における粒子の基本的な見方や概念を形成する上で基本的なことです。溶液と溶媒と溶質の質量の関係に注意しながら確認することが大切で、小学校算数科の学習で使われている線分図（テープ図）を利用するなど、溶質と溶媒の割合の関係を視覚的に捉えることができるようにします。

②(3)は、観察・実験の結果を分析して解釈し、考察したことを適切に表現する技能を活用して、「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘することができるかどうかをみる選択式問題でした。県平均を 8.9 ポイント下回りました。解答類型からは、「光を当てない方が出した砂の質量が多い」や「光を当てた方が出した砂の質量が少ない」と解答した生徒の反応率がどちらも 11.6%でした。「アサリが出した砂の質量は、明るさに関係していない」という考察の理由として、実験の結果に差があるとしているため、実験結果を分析して解釈することに課題があると考えられます。他者の考察を科学的な根拠を踏まえて、分析して解釈できるようにするために、科学的な思考力や表現力を育成する上で、目的意識をもって観察・実験を行い、得られたデータを分析して解釈し、科学的な根拠を踏まえ、論理的な思考に基づいて考察を行うようにします。

⑥(2)は、実験の結果を示した表から電流の値を読み取ったり、オームの法則を使って、抵抗の値を求めたりする問題でした。表から電流の値を読み取る設問では、県平均より 10.3 ポイント下回りました。無解答率も 20.3%で高い結果となりましたが、解答類型からは特徴的な傾向はなく、偏りは見られませんでした。指導にあたっては、観察・実験の結果を整理して表やグラフに表し、必要なデータを読み取ったり、規則性を見いだしたりする学習場面を適切に位置付けていきます。

エ 国語（2年）

本校の平均正答率は 59.4%で、県平均を 0.3 ポイント上回り、設問数では、全 31 問のうち 14 問が県平均を上回っていました。①二、②三は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、()は無解答率

	①一	③一	④一
本校	46.0 (4.5)	48.5 (1.5)	54.5 (2.5)
県	53.2 (6.5)	53.8 (1.9)	62.1 (3.0)

①一は、取材した材料を基に話題を決める記述式問題でした。【仕事紹介カード】に書かれていることを用いたり、質問に対する回答に合うように書いたりしていることが正答の条件でした。【仕事紹介カード】に書かれている文をそのまま解答とし、また、文末が「もたれた」でなく「もつ」など相手に対しての話し方が身に付いておらず、誤答となっていました。話を聞く場面や話合いの場面で、相手が何を伝えようとしているのかを話のまとまりごとに整理するような言語活動を授業に位置付けていきます。

③一は、トキが復帰するまでには、どのような経過であったかを文章の展開から読み取る必要がありました。文章を読み、結果に至る経緯を順序立てて捉える問題で、文章に書いてある内容を整理しながら正確に読み取る力が十分ではないといえます。4 つの選択肢を並び替える選択式問題ですが、完全正答の採点基準もあり、低い正答率でした。事実や意見などを区別させたり、それらの関係を捉え、図や表などに構造的にまとめさせたりすることが大切です。文章の内容を的確に押さえる力を育成するために、理由や根拠、筆者の主張などが書かれている形式段落や文と文のつながりを捉えさせて読ませることも指導していきます。また、授業展開の中に、中心となる語や文に着目させることも位置付けていきます。

④一は登場人物の心情や行動に注意して読む、「読む」領域の選択式の問題でした。正答率は 54.5%で県平均を 7.6 ポイント下回りました。文章の内容をもとにして、主人公の心情

を深く考えさせるもので、誤答の原因として直前の文だけに注目し全体を踏まえていないことがあげられます。一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係付けたりして読ませるようにします。

オ 数学 (2年)

本校の平均正答率は54.8%で、県平均を1.0ポイント上回りました。設問別に見ても、県平均を上回った設問数は、全32問のうち15問でした。2(3)②、7(2)、10(1)は、次のような正答率でした。どれも無解答率が高く、正答率が低い傾向が見られます。

本校及び県の平均正答率、()は無解答率

	2(3)②	7(2)	10(1)
本校	33.8 (15.7)	13.6 (23.4)	16.7 (17.7)
県	41.2 (16.6)	26.3 (26.9)	27.9 (14.1)

経年比較【「方程式を解く問題」の平均正答率、()は無解答率】

調査時期	H30年度4月調査 2年次	H29年度12月調査 1年次
問題番号	2(3)②	5(2)
本校	33.8 (15.7)	43.3 (16.0)
県	41.2 (16.6)	45.3 (14.2)
問題内容	方程式 $\frac{x+12}{3} = \frac{1}{5}x$ を解きなさい。	方程式 $\frac{1-x}{2} = \frac{2x+5}{3}$ を解きなさい。

2(3)②は、分数を含む一元一次方程式を解く基本問題でした。1年次の12月調査(H29.12.6実施)にも出題されており、本校正答率は43.3% (県平均45.3%)、無解答率16.0% (県平均14.2%)でした。計算力が定着せず、改善できていません。家庭学習を充実させながら、基本的な計算力がつくように、根気強く取り組ませてきます。連立方程式や3年次の二次方程式にも関連する内容です。

7(2)は、2つの図形の関係性を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する記述式問題でした。正答の条件として、「回転の中心」「回転の方向」「回転する角の大きさ」の3つが必要でしたが、問題文の中に例示があり、活用に関する問題の一つでした。無解答率も高い結果となりました。本問題のような「数学的に解釈することや表現すること」については、全国調査においてもα型問題として出題され、文科省は付きたい力の一つと考えています。授業において、適切な課題に対して数学的な表現を用いて説明し合う活動を位置付けていくようにします。論理的に考えを進めながら新たな知識を習得できるようにする上で大切なことといえます。

10(1)は、度数分布表から最頻値を求める基本的な短答式問題でした。「最頻値」の意味が理解できておらず、次期学習指導要領においてポイントとなる統計教育の「データの活用」にも関連してきます。「中央値」や「階級値」、「範囲」など、新しく導入される「箱ひげ図」の指導内容と合わせて、見直しを図ります。

カ 国語（1年）

本校の平均正答率は61.6%で、県平均を7.9ポイント下回り、県平均を上回った設問数は、全32問のうち2問でした。**2**三、**2**五、**4**三は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、()は無解答率

	2 三	2 五	4 三
本校	14.6 (8.7)	30.1 (12.6)	45.6 (13.1)
県	40.3 (3.5)	41.2 (4.4)	59.8 (6.1)

2三は、「生活委員会だより」に関する問題で、下書きをもとに3つの条件に合うように書き直す記述式問題でした。県平均との差が最も大きく、25.7ポイント下回りました。3つの条件は、

- 文章の意味を変えないで、一文を二文に分けて書くこと。
- 二文目の初めに、文と文をつなぐ言葉を入れること。
- 【生活委員会だよりの下書き】の書き方に合わせて書くこと。

でしたが、「一文を二文に分けて書く」「文と文をつなぐ言葉を入れる」が十分でない誤答が多くありました。また、**2**五も生活委員会から全校生徒に伝えたいことを条件に合わせて二文で書く記述式問題でしたが、県平均を11.1ポイント下回りました。これらの記述式問題から、条件の意図を正確に読み取り、条件を踏まえて記述することが苦手であり、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書いたり、資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたりすることに課題が見られます。授業中の書く活動では、字数や書き出しを指定して書かせるなど、条件を与えて書く活動を適切に位置付けていきます。

4三は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、様式に合わせてまとめる「読む」領域の記述式問題でした。文章の中に出てくるニホントカゲとゴマフアザラシについて、これまで言われていたことと新たに分かったことをまとめていく中で、ゴマフアザラシの新たに分かったことを「～こと。」で終わるように記述する問題でした。文章の内容を捉えて的確にまとめることができている誤答が目立ちました。今後は、文章に表れているものの見方や考え方を読み取り、条件に合わせて書く活動の充実を図っていきます。例えば、文章を読ませる際には、文章に書かれている書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げさせていくことで活用する力を育てていきます。

キ 数学（1年）

本校の平均正答率は60.5%で、県平均を6.6ポイント下回りました。設問別に見ても、県平均を上回った設問数は、全27問のうち3問でした。**2**(4)、**5**(2)、**6**(2)、**10**は、次のような正答率でした。

本校及び県の平均正答率、()は無解答率

	2 (4)	5 (2)	6 (2)	10
本校	47.3 (2.0)	62.0 (4.4)	54.1 (4.4)	15.1 (15.6)
県	62.6 (0.5)	75.0 (1.6)	67.6 (2.3)	37.6 (6.0)

2(4)は、 m^2 で表された体積を、 cm^3 の単位の式に表す基本的な選択式問題でした。立方体の体積の求め方は理解していても、関連付けて考えることができいていません。具体的に図を書いて1辺の長さをcmで表せば求めることができます。ただ、**2**(5)の「1m3cmは何mか」という基本問題の正答率も38.0%でした。今後は、類題として速さの単位を扱い、折に触れ

て単位を変換できるようにします。⑤(2)は、三角柱の体積を求める問題でした。②(4)と同じく図形の計量にかかる内容ですが、定着していません。底面と高さを正しく捉えることができていることも考えられます。3学期に「空間図形」を学習する際、再確認し、展開図や投影図と合わせて多角的に立体を捉えることができるように指導します。

⑥(2)は、速さの問題で、「自転車で6kmの道のりを20分間かけて走ったとき、分速何mで進んだことになるか」を計算する短答式問題でした。これも基本問題の一つですが、正答率は54.1%という結果でした。道のりと時間から速さが計算できず、「分速」の意味が理解できていない状況が分かります。速さの単位で、km/時やm/分などが「道のり/時間」を意味しており、このことから、速さは「道のり÷時間」となっていることに触れ、苦手意識をもたせないように丁寧に扱うようにします。

⑩は、活用に関する内容で、長方形と正方形を2等分する考えを基に、示された式が正しい理由を説明する記述式問題でした。何をどのように書いたらよいのかも分からず、無解答率も高い結果となりました。日ごろの授業で扱うことが少なければ、定着させることは難しいタイプです。県平均との差が最も大きく、22.5ポイント下回りました。このような問題は、全国調査のB問題にも毎年出題され、前述の文科省が求めている数学的力であるα型の「数学的に解釈することや表現すること」に相当します。事柄が成り立つ理由を説明する問題形式には、その根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明することがポイントで、論理的な思考力や表現する力が必要です。また、理由の説明の問題では、⑩のような「示された説明すべき事柄の根拠を記述する形式」のほかにも、「説明すべき事柄を判断し、その根拠を記述する形式」もあります。授業中に数学的活動を位置付け、適切な課題を設定した協働学習によって、論理的思考力とともに記述力を高めていきます。

ク その他（3年国語A及び数学Aの漢字や計算の基本問題）

全国調査のA問題で、漢字や計算の基本問題が出題され、平均正答率は次のような結果でした。【 】は漢字についての小学校学年配当です。

番号	国語A問題【学年配当】及び数学A問題の内容	平均正答率		
		本校	県	全国
⑧ ₁	紙をひもで <u>タバ</u> ねる ____のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。 【小4】	65.3	76.8	79.0
⑧ ₂	舞台の <u>マク</u> が上がる ____のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。 【小6】	67.6	72.4	72.9
⑧ ₃	先制点を <u>ユル</u> す ____のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。 【小5】	68.8	70.1	71.4
①(3)	$2 \times (-5^2)$ を計算しなさい。	69.0	66.6	68.9
②(2)	$6a^2b \div 3a$ を計算しなさい。	93.1	91.0	91.0
③(2)	比例式 $x : 20 = 3 : 4$ を解きなさい。	81.0	87.8	87.8
③(3)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x - 2y = 10 \\ 3x - 2y = 2 \end{cases}$ を解きなさい。	86.8	79.4	80.0

国語Aの基本的な漢字については、3問とも県平均を下回りました。一方、数学Aの基本的な計算については、③(2)比例式 $x : 20 = 3 : 4$ を解く問題は県平均を6.8ポイント下

回りましたが、他の3問は県平均及び全国平均を上回りました。

①(3)の指数を含む正の数と負の数の基本的な計算は正答率69.0%です。県平均や全国平均を上回っていますが、20.1%の生徒が50と解答しており、指数の計算が正しくできていません。引き続き、十分な家庭学習の時間をうながし、計算問題練習を取り入れます。また、漢字の定着も十分とはいえません。日々の学校生活の場面でも漢字を積極的に使っていくように働きかけていきます。漢字は、一字一字を正確に読み書きできるだけでなく、語や語句として理解し、文脈に即したり漢字の特徴を理解したりして、適切に使えるようになることが大切です。そのためには、既習の漢字を積極的に使用するよう指導するとともに、同音の漢字や形が似た漢字など、間違いやすい漢字に注意するよう指導し、実際に漢字を読んだり書いたりする機会を多くして、習熟を図るようにします。また、出題された漢字の学年配当はすべて小学校で学習した漢字です。中学校での新出漢字の練習も必要ですが、小学校の既習内容も繰り返し、行わなければなりません。また、読書や新聞記事も積極的に読む習慣を付けていきます。

次のように、1、2年の県調査にも、漢字や計算の基本問題で課題が見られました。家庭学習の在り方にも見直すところがあります。家庭での勉強時間の少なさや充実した内容にするためにも一人一人が意識を高くもって取り組むことができるようにサポートしてまいります。ご家庭でのご協力・ご理解も合わせてよろしくお願いいたします。

学年 教科	番号	漢字【学年配当】や計算の基本問題の内容	平均正答率	
			本校	県
1年 国語	⑤二 1	速度を一定に <u>タモつ</u> ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小5】	73.3	79.7
	⑤二 2	おしくも試合に <u>ヤブ</u> れた ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小4】	53.4	65.9
	⑤二 3	今日の天気は <u>カイセイ</u> だ ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小5】 【小2】	43.7	58.6
	⑤二 4	日曜日は新聞の <u>ユウカン</u> が休みだ ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小1】 【小5】	29.6	52.3
	⑤二 5	兄は世界的に有名な <u>ケンチク</u> 家だ ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小4】 【小5】	46.6	65.0
2年 国語	⑤二 1	<u>セイミツ</u> 機器を運ぶ ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小5】 【小6】	50.0	46.0
	⑤二 2	洗たくで服が <u>チヂ</u> んだ ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小6】	69.7	78.0
	⑤二 3	先祖を <u>ウヤマ</u> う ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小6】	57.1	53.7
	⑤二 4	生活習慣を <u>カイゼン</u> する計画 ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小4】 【小6】	54.0	48.3
	⑤二 5	理科の学習で <u>ジシヤク</u> を使う ___のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに 書きなさい。 【小6】 【小1】	83.8	77.1

1年 数学	①(1)	$\frac{3}{8} \times \frac{2}{9}$ を計算しなさい。	89.3	94.3
	①(2)	$2\frac{2}{5} \times \frac{3}{4}$ を計算しなさい。	85.4	89.6
	①(3)	$\frac{5}{9} \div \frac{2}{3}$ を計算しなさい。	91.2	95.3
	①(4)	$\frac{2}{3} \div 0.2$ を計算しなさい。	85.4	89.9
	①(5)	$\frac{2}{3} - \frac{1}{3} \div \frac{2}{3}$ を計算しなさい。	37.6	50.0
2年 数学	①(1)	$5 - 1 \cdot 1$ を計算しなさい。	94.9	97.0
	①(2)	$4 \times (-3)^2$ を計算しなさい。	70.7	78.1
	①(3)	$4a - 3 - 6a + 7$ を計算しなさい。	71.2	78.0
	①(4)	$3(3 + 2x) - (x - 5)$ を計算しなさい。	57.1	63.3